

（ほう）こん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録
2011年9月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03) 6379-5521 / FAX(03) 6379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

2011年7月25日、7月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 飯田副編集長
・今『GALAC』9月号入稿中。
パインソンは、ピストン西沢氏。特集は、「検証！東日本大震災とメディア(前編)」。10月号は同じく後編の特集となる。11月号で原発を特集するので、東日本大震災特集は3か月連続となる。10月号のパインソンは東京国立近代美術館フィルムセンターの岡島尚志氏。

◇選奨事業委員会 小田桐委員長
・名称は未定ですが、現在のシステムを検証し、これからのギャラクシー賞選考の在り方を考える委員会の設立を提案したい。

何度か当理事会で発言してきた

ギャラクシー賞50周年を機に 賞選考などを再検討

7月理事会報告

が、50年を機にギャラクシー賞選考に関する諸々をもう一度検討し、次の50年の指針を再確認すべきとの思いからである。

目的は今までは各部門の独自性というカラーを大切にしていたが、ギャラクシー賞としての統一性みたいなものが若干欠けていたのかなと思う。各部門委員会が独立国であり、連邦のようであった。それはそれなりに良い面があったが、少しバラバラ感があったように感じている。他の委員会との共通性のようなものを求めていき、ギャラクシー賞の統一感を持ちたい。

メンバー案は、私、選奨事業委員長小田桐、それに各部門委員長として、テレビ部門上滝委員長、

ラジオ部門桜井委員長、CM部門五井委員長、報道活動部門確井委員長、さらに、音理事長、橋本専務理事、藤久前テレビ部門委員長、藤田元テレビ部門委員長、事務局から福島さんの10名。今後月に1回を目的に積極的に会合を開催したい。協力をお願いする。了解を得たい。

・これに関して、橋本専務理事から補足説明があった。

(橋本) 苦労様だがよろしくお願しいたい。メンバー案に関して少し私から補足するとテレビ部門上滝委員長に、こういった会を考えていると相談した折り、この会は共通認識を持つ会なのか、長い面での改革を検討する会なのかとの質問があった。私の考えはその双方であると思うと答えたら、長期的な面を含むなら是非、川喜田副委員長を入れて欲しいと要望されていたので、先程のメンバーに川喜田副委員長を加えたい。

また、その他の委員会の副委員長も排除するつもりはありません。メンバーがあまり多すぎると会合開催が繁雑になるとの判断で入れ

☆ギャラクシー賞 マイベストTV賞☆

2011年7月度の投票も 始まりました!

ギャラクシー賞マイベストTV賞2011年7月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、添付した 正会員専用投票用紙 でマイベストTV賞の投票にご参加ください。リスト以外の作品を記入できる欄もあります。ご活用ください。

正会員の皆さまのご参加をお待ちしています!

「7月」………

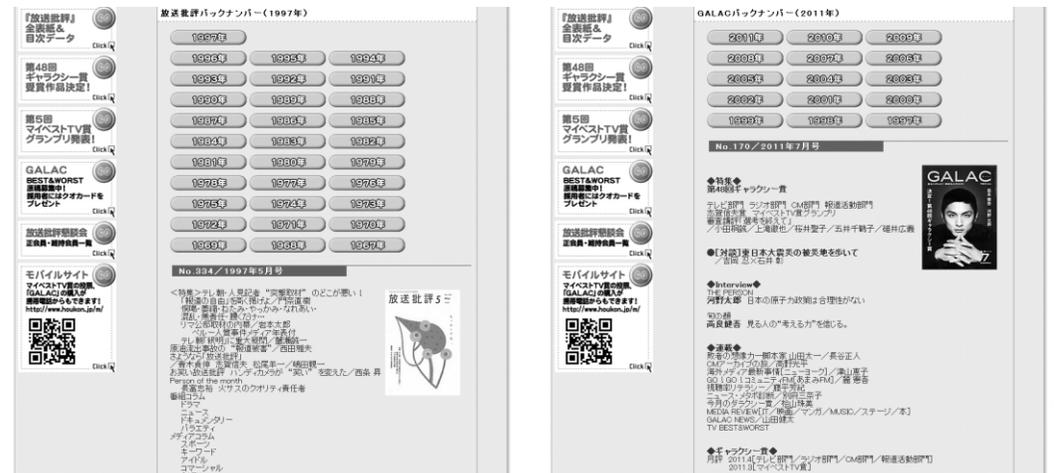
会議記録

28日	(選奨) ラジオ定例会
27日	(選奨) テレビ月評会
25日	記念事業プロジェクト 理事会
21日	出版編集委員会

確井広義、滝野俊一、飯田みか、石井彰、入江たのし、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、嶋田親一、稗田政憲、中島好登

『放送批評』『GALAC』バックナンバー公開!

通巻500号記念の『放送批評』『GALAC』バックナンバー公開プロジェクトが完了しました!
『放送批評』創刊号から『GALAC』最新号まで、すべての表紙と目次データを当会ウェブサイトに掲載いたしました。



『放送批評』
<http://www.houkon.jp/galac/housou1967.html>

『GALAC』
<http://www.houkon.jp/galac/backnumber.html>

正会員の皆様にご活用いただければ幸いです。

なお、トップページには、サイト内検索のGoogleバーも設置しております。雑誌情報やギャラクシー賞の検索などにたいへん便利です。ぜひご利用ください。

ませんでした。委員長のスケジュール等で欠席となる場合など同格で代理出席は勿論歓迎で、多くの方の考えを聞き取り入れた案を期待している。

テーマなどは確定しているわけではない。何度もお願ひしているように、50年を機に洗い直しをするべき時期と考えて選奨事業委員長にお願ひした件である。

短期的な課題、中長期的な課題さまざまあると思う。全てを再検討して欲しい。改革だけが目的ではなく、再検討が目的で現行体制が最良という結論もあり得ると思っている。

ひとつ確認すると、賞の名称の件も私は今のままでよいというのが結論のように理解していたが、そうではないと理解している方がいることが分かったので、この件も再確認して欲しい。

私見で言えば、改めるにはばかりなことではないので、検討を精力的に進めていただき、49期から変更することもあり得ると思っている。

勿論、50年記念となる選考会は来年の今頃には、応募要項が決定していることが必要なので、理事会の論

議を考慮すると、年内には答申案が欲しい。

↓全員一致で了承された。

〈テレビ委員会〉川喜田副委員長

・6月度月間賞の発表があった。

〔GALAC〕9月号参照

〈ラジオ委員会〉桜井委員長

・6月29日、合評会開催。

・7月3日「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」を有楽町ニッポン放送のイマジングスタジオで開催した。

試聴した番組は、大賞作品「インターが聴こえない」白鳥事件60年目の真実（HBC北海道放送）と優秀賞「ラストイニング 全国高校野球県予選決勝 聖母学苑対彩珠学院」（LFPニッポン放送）の2作品。

参加者は一般が62名、学生が16名、計78名。今回もアンケートを実施したのでそれを参考に更に工夫して、次回は、9月か10月を予定している。

尚、DJパーソナリティ賞受賞のピストン西沢氏が取材に答えて掲載されたフリーペーパーの披露があった。写真撮影は、篠山紀信氏のこと。

〈CM委員会〉五井委員長

こういった企画は、今年さらに数回実施したい。どんな番組にするかは検討中。

◇第48回ギャラクシー賞贈賞式懇親会決算報告 橋本専務理事

・決算報告書の説明があつて、了承。

2. その他

①入会・退会 中島事務局長

・入会 正会員 小林直毅氏、高堀冬彦氏

維持会員 日本映画衛星放送様、宮崎放送様

送様、正会員 望月正義氏

・退会 正会員 熊本朝日放送様

維持会員 熊本朝日放送様

②記念事業プロジェクト

・記念出版関係の中の「記念論文集」は順調に編集作業が進んでいる。

・ギャラクシー賞40年史を基に50年史をどうするか議論した。40年以降の事項を40年史の形式に做つて追補する形が良いのではとの意見が多数。50周年編集委員会に検討を改めて依頼。

・データベースにするばかりでなく観られるシステムにする作業順調。その費用に関しても業者側の協力を得ている。

・6月24日に合評会開催。そこで以下の議論をした。

一、シリーズCMへの対応。その後の調査の結果、現行通りで問題無しとした。他の同様なCM顕彰と違う面もあるが、それがこの会の特色。

二、選考基準の明確化、文章化。この件は稗田副委員長が中心となって検討している。先程の小委員会に選考基準の問題が関わってくるようなら、メンバーとしての扱いお願ひする。

三、GALAC誌で毎号CM評を掲載している。これは各社から応募されたCMではなく委員独自の視点・観点から選んだ作品である。したがって肝心の映像が無いのでネットを利用して集め使用。この著作権に關して問題はどうかを検討した。現在最終結論ではないが、以下のような判断をしている。

（稗田副委員長）「著作権法第32条（引用）」の条文を元に基本的には許可を取る必要はなく問題無いのではと判断している。

四、先程のラジオの会のように、CMの入賞作品を見る機会を作れないだろうかと検討している。これに關

・トロフィの件。依然、松永氏の作業の進展の結果待ち状態。今後のことを時系列で考えれば、9月末くらいに一定の目途を付ける必要があると思う。

③志賀基金運用に関して

橋本専務理事

・志賀基金を的確に運用するに当たつて、前回検討した案をさらに見直してより効率的な運用を目指す案が専務理事より提案された。（現状の運用実態と新提案の説明があつた）

同案に対し複数の理事から、安全性というか危険性の検討・説明等が足りないとの指摘があり、更に詳細な内容説明を必要とするのではないかと発言があり、次回に再検討することとなった。

④日韓中札幌大会派遣メンバーの件

橋本専務理事

・橋本専務理事、中島事務局長の2名の派遣案を了承。

◇次回以降の理事会

8月 休会

9月 9月29日（木）

10月 10月24日（月）

【出席】音好宏、橋本隆、上滝徹也、小田桐誠、桜井聖子、五井千鶴子、